

## 第2回クールジャパン人材育成検討会 検討課題案についての委員からのご意見

### 1. 長谷川委員のご意見

専門職大学では、実技を学ぶ人に経営ノウハウを学んでもらうことが想定されるが、美術史コースでは実務経験をさせるなど経営する側の実態体験をいかにさせるかということが、かねてから組み込まれている。また、ビジネス等においては、プロデュース能力がある人材と専門家をどうマッチングさせるかも重要だ。

教員の柔軟な参画について：イギリスの Goldsmiths 大学には [Forensic Architect](#) (以下 FA) というリサーチエージェンシーがある。この組織は、世界中で起きている民間人が被害にあっている都市部での紛争やテロに対して、建築学とメディア分析による調査を行い、国際検察機関や国連、人権団体、政治・環境団体等の NGO に問題解決につながるよう情報提供を行っている。この組織のユニークな点は、設計士や学者、映像制作者や弁護士、科学者、デザイナーなどプロジェクトごとに様々なバックグラウンドを持った人材がチームを形成する点である。調査結果については、メディアや国際的な法政会議等で発表を行っている。このように、イギリスは教育機関においてもブランディングを行い、価値づけをすることに長けているが、日本の場合は優秀な人材を講師として依頼したい場合も柔軟な取り組みができず、課題だと感じている。

ゲームのプログラミングなどの教育については、アカデミックな価値づけ（評価軸）を設けることが重要。例えば、子供たちにプログラミングのコンテストで賞を与える際には、あわせて、その賞をとったらどういう結果が待っているかが分かるよう、「価値」というゴールを作ることが効果的ではないか。

### 2. 太田委員のご意見

高等教育等で卒業後に起業できる人材を育てる必要がある。

専門職大学は、専門技術と事業運営スキルを併せ持つ人材を育てる高等教育機関たりうる素地が十分にある。

キャリアチェーンで高等教育機関を卒業してすぐに起業するという選択肢も想定し、意識的にそのような教育プログラムを設定することが必要ではないか。